文学研究科

◎文学研究科英語英文学専攻博士前期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制

1．博士前期課程における研究指導計画

必修の「論文演習」では学位論文の完成を目指して、2年次の前期と後期に指導教員を中心とした指導を行う。修士論文の完成に向けては、指導教員（論文審査で主査となる）以外に、1名の論文審査で副査に予定されている教員も修士論文の作成に係る指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員を決定する。 各大学院生は、当該指導教員が担当する「演習 I」「演習 II」または「研究 I」「研究 II」を履修し、その助言を受けて研究テーマに適合する履修科目を決定し、履修登録する。 「演習 I」「演習 II」または「研究 I」「研究 II」では各大学院生の学位論文の作成に必要な基礎的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を一年間通じて行う。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
12月	修士論文の論文題目を仮決定し、指導教員に報告する。

【2年次】

4月	各大学院生は、1年次に引き続き指導教員が担当する「演習 III」「演習 IV」または「研究 III」「研究 IV」を履修し、またその助言を受けて2年次の履修科目を決定・登録する。 修士論文の概要を指導教員に提出する。指導教員はその内容に関連する分野の教員と協議の上、論文作成について指導と助言を行う。 各大学院生は、指定された日時に「修士論文題目届」を提出する。この段階で修士論文の主査1名（指導教員）と副査1名が決定される。
10月	各大学院生は、修士論文の進展状況について指導教員に報告し、確認を受ける。
1月	修士論文の提出
2月	論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2．学位（修士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

修士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

①テーマの選択が明確であること。
②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
③研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
④独自の知見や発想、斬新な着眼点を示す研究であること。
⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、各大学院生が2年次当初に修士論文の審査のための論文審査委員（主査1名、副査1名）が選任されており、論文査読ならびに口述試験による最終試験が実施された後に、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、修士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位（修士）を授与することになる。

◎文学研究科英語英文学専攻博士前期課程授業科目及び履修単位

区分		科目名	単位 1年 単位	単位 1年 開講期	単位 2年 単位	単位 2年 開講期	担当者名
基礎科目		Thesis Writing Ⅰ	2	半期			吉村 富美子
		Thesis Writing Ⅱ	2	半期			吉村 富美子
		Research Presentation Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		Research Presentation Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
専門科目	英米文学	中世英文学演習Ⅰ	2	半期			砂澤 健治
		中世英文学演習Ⅱ	2	半期			砂澤 健治
		中世英文学演習Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		中世英文学演習Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		近世英文学演習Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		近世英文学演習Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		近世英文学演習Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		近世英文学演習Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		近代英文学演習Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		近代英文学演習Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		近代英文学演習Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		近代英文学演習Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		近代米文学演習Ⅰ	2	半期			井出 達郎
		近代米文学演習Ⅱ	2	半期			井出 達郎
		近代米文学演習Ⅲ			2	半期	井出 達郎
		近代米文学演習Ⅳ			2	半期	井出 達郎
		現代英米文学演習Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		現代英米文学演習Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		現代英米文学演習Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		現代英米文学演習Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		英米詩研究Ⅰ	2	半期			石橋 敬太郎
		英米詩研究Ⅱ	2	半期			石橋 敬太郎
		英米詩研究Ⅲ			2	半期	石橋 敬太郎
		英米詩研究Ⅳ			2	半期	石橋 敬太郎
		英米小説研究Ⅰ	2	半期			植松 靖夫
		英米小説研究Ⅱ	2	半期			植松 靖夫
		英米小説研究Ⅲ			2	半期	植松 靖夫
		英米小説研究Ⅳ			2	半期	植松 靖夫
		英米演劇研究Ⅰ	2	半期			福士 航
		英米演劇研究Ⅱ	2	半期			福士 航
		英米演劇研究Ⅲ			2	半期	福士 航
		英米演劇研究Ⅳ			2	半期	福士 航
		英米文学特殊講義Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		英米文学特殊講義Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
	英語学・言語学	英語学演習Ⅰ	2	半期			バックレイ フィリップ
		英語学演習Ⅱ	2	半期			バックレイ フィリップ
		英語学演習Ⅲ			2	半期	バックレイ フィリップ
		英語学演習Ⅳ			2	半期	バックレイ フィリップ
		言語学演習Ⅰ	2	半期			大石 正幸
		言語学演習Ⅱ	2	半期			大石 正幸
		言語学演習Ⅲ			2	半期	大石 正幸
		言語学演習Ⅳ			2	半期	大石 正幸

区分		科目名	単位 1年 単位	単位 1年 開講期	単位 2年 単位	単位 2年 開講期	担当者名
専門科目		文法論演習Ⅰ	2	半期			北原久嗣
		文法論演習Ⅱ	2	半期			北原久嗣
		文法論演習Ⅲ			2	半期	北原久嗣
		文法論演習Ⅳ			2	半期	北原久嗣
		統語論研究Ⅰ	2	半期			豊島孝之
		統語論研究Ⅱ	2	半期			豊島孝之
		統語論研究Ⅲ			2	半期	豊島孝之
		統語論研究Ⅳ			2	半期	豊島孝之
		音韻論研究Ⅰ	2	半期			那須川訓也
		音韻論研究Ⅱ	2	半期			那須川訓也
		音韻論研究Ⅲ			2	半期	那須川訓也
		音韻論研究Ⅳ			2	半期	那須川訓也
		英語学・言語学特殊講義Ⅰ	2	半期			大沼仁美
		英語学・言語学特殊講義Ⅱ	2	半期			豊島孝之
	英語教育学・応用言語学	英語教育学演習Ⅰ	2	半期			村野井仁
		英語教育学演習Ⅱ	2	半期			村野井仁
		英語教育学演習Ⅲ			2	半期	村野井仁
		英語教育学演習Ⅳ			2	半期	村野井仁
		応用言語学演習Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		応用言語学演習Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		応用言語学演習Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		応用言語学演習Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		英語教育学実践研究Ⅰ	2	半期			村野井仁
		英語教育学実践研究Ⅱ	2	半期			村野井仁
		英語教育学実践研究Ⅲ			2	半期	村野井仁
		英語教育学実践研究Ⅳ			2	半期	村野井仁
		第二言語習得研究Ⅰ	2	半期			白畑知彦
		第二言語習得研究Ⅱ	2	半期			白畑知彦
		第二言語習得研究Ⅲ			2	半期	白畑知彦
		第二言語習得研究Ⅳ			2	半期	白畑知彦
		異文化間コミュニケーション研究Ⅰ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		異文化間コミュニケーション研究Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
		異文化間コミュニケーション研究Ⅲ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		異文化間コミュニケーション研究Ⅳ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		英語教育学・応用言語学特殊講義Ⅰ	2	半期			渡部良典
		英語教育学・応用言語学特殊講義Ⅱ	2	半期			英語英文学専攻担当教員
論文演習		論文演習Ⅰ			2	半期	英語英文学専攻担当教員
		論文演習Ⅱ			2	半期	英語英文学専攻担当教員

◎履修方法

2年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

基礎科目は4単位以上を修得しなければならない。

論文演習は4単位を修得しなければならない。

なお、研究指導教員及び当該授業科目の担当教員の承認があれば、委託聴講生として他大学の大学院の授業科目のうちから選択履修することができるものとし、10単位を限度に課程修了に必要な単位として認める。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。

EN 100－01－5R－1

専攻記号

文学研究科
- EN　英語英文学専攻
- AS　アジア文化史専攻
- EU　ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科
- EC　経済学専攻
- DS　経済データサイエンス専攻

経営学研究科
- BU　経営学専攻

法学研究科
- LA　法律学専攻

工学研究科
- ME　機械工学専攻
- EI　電気工学専攻
- EE　電子工学専攻
- CE　環境建設工学専攻

人間情報学研究科
- HU　人間情報学専攻

科目区分

科目分類に従い、順に
大分類、中分類、小分類

中分類または小分類がない場合は0。

分類内での
科目番号

開講学年

5　博士前期課程（修士課程）1年
6　博士前期課程（修士課程）2年
7　博士後期課程1年
8　博士後期課程2年
9　博士後期課程3年

必修選択の区分

R　必修科目
C　選択必修科目
E　選択科目

難易度

1　基礎
2　中級
3　上級

◎文学研究科英語英文学専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

科目ナンバリング	科　目　名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		英語英文学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する	英語英文学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する	英語英文学に関する学術研究の遂行および成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する
EN100-01-5C-1	Thesis Writing Ⅰ	○		◎
EN100-02-5C-1	Thesis Writing Ⅱ	○		◎
EN100-03-5C-1	Research Presentation Ⅰ	○		◎
EN100-04-5C-1	Research Presentation Ⅱ	○		◎
EN210-01-5C-2	中世英文学演習Ⅰ		◎	○
EN210-02-5C-2	中世英文学演習Ⅱ		◎	○
EN210-03-6C-3	中世英文学演習Ⅲ		◎	○
EN210-04-6C-3	中世英文学演習Ⅳ		◎	○
EN210-05-5C-2	近世英文学演習Ⅰ		◎	○
EN210-06-5C-2	近世英文学演習Ⅱ		◎	○
EN210-07-6C-3	近世英文学演習Ⅲ		◎	○
EN210-08-6C-3	近世英文学演習Ⅳ		◎	○
EN210-09-5C-2	近代英文学演習Ⅰ		◎	○
EN210-10-5C-2	近代英文学演習Ⅱ		◎	○
EN210-11-6C-3	近代英文学演習Ⅲ		◎	○
EN210-12-6C-3	近代英文学演習Ⅳ		◎	○
EN210-13-5C-2	近代米文学演習Ⅰ		◎	○
EN210-14-5C-2	近代米文学演習Ⅱ		◎	○
EN210-15-6C-3	近代米文学演習Ⅲ		◎	○
EN210-16-6C-3	近代米文学演習Ⅳ		◎	○
EN210-17-5C-2	現代英米文学演習Ⅰ		◎	○
EN210-18-5C-2	現代英米文学演習Ⅱ		◎	○
EN210-19-6C-3	現代英米文学演習Ⅲ		◎	○
EN210-20-6C-3	現代英米文学演習Ⅳ		◎	○
EN210-21-5C-2	英米詩研究Ⅰ	◎	○	
EN210-22-5C-2	英米詩研究Ⅱ	◎	○	
EN210-23-6C-3	英米詩研究Ⅲ	◎	○	
EN210-24-6C-3	英米詩研究Ⅳ	◎	○	
EN210-25-5C-2	英米小説研究Ⅰ	◎	○	
EN210-26-5C-2	英米小説研究Ⅱ	◎	○	
EN210-27-6C-3	英米小説研究Ⅲ	◎	○	
EN210-28-6C-3	英米小説研究Ⅳ	◎	○	
EN210-29-5C-2	英米演劇研究Ⅰ	◎	○	
EN210-30-5C-2	英米演劇研究Ⅱ	◎	○	
EN210-31-6C-3	英米演劇研究Ⅲ	◎	○	
EN210-32-6C-3	英米演劇研究Ⅳ	◎	○	
EN210-33-5C-2	英米文学特殊講義Ⅰ	○	◎	
EN210-34-5C-2	英米文学特殊講義Ⅱ	○	◎	
EN220-01-5C-2	英語学演習Ⅰ		◎	○
EN220-02-5C-2	英語学演習Ⅱ		◎	○
EN220-03-6C-3	英語学演習Ⅲ		◎	○
EN220-04-6C-3	英語学演習Ⅳ		◎	○
EN220-05-5C-2	言語学演習Ⅰ		◎	○
EN220-06-5C-2	言語学演習Ⅱ		◎	○
EN220-07-6C-3	言語学演習Ⅲ		◎	○
EN220-08-6C-3	言語学演習Ⅳ		◎	○
EN220-09-5C-2	文法論演習Ⅰ		◎	○
EN220-10-5C-2	文法論演習Ⅱ		◎	○
EN220-11-6C-3	文法論演習Ⅲ		◎	○

科目ナンバリング	科　目　名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		英語英文学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する	英語英文学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する	英語英文学に関する学術研究の遂行および成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する
EN220-12-6C-3	文法論演習Ⅳ		◎	○
EN220-13-5C-2	統語論研究Ⅰ	◎	○	
EN220-14-5C-2	統語論研究Ⅱ	◎	○	
EN220-15-6C-3	統語論研究Ⅲ	◎	○	
EN220-16-6C-3	統語論研究Ⅳ	◎	○	
EN220-17-5C-2	音韻論研究Ⅰ	◎	○	
EN220-18-5C-2	音韻論研究Ⅱ	◎	○	
EN220-19-6C-3	音韻論研究Ⅲ	◎	○	
EN220-20-6C-3	音韻論研究Ⅳ	◎	○	
EN220-21-5C-2	英語学・言語学特殊講義Ⅰ	○	◎	
EN220-22-5C-2	英語学・言語学特殊講義Ⅱ	○	◎	
EN230-01-5C-2	英語教育学演習Ⅰ		◎	○
EN230-02-5C-2	英語教育学演習Ⅱ		◎	○
EN230-03-6C-3	英語教育学演習Ⅲ		◎	○
EN230-04-6C-3	英語教育学演習Ⅳ		◎	○
EN230-05-5C-2	応用言語学演習Ⅰ		◎	○
EN230-06-5C-2	応用言語学演習Ⅱ		◎	○
EN230-07-6C-3	応用言語学演習Ⅲ		◎	○
EN230-08-6C-3	応用言語学演習Ⅳ		◎	○
EN230-09-5C-2	英語教育学実践研究Ⅰ	◎	○	
EN230-10-5C-2	英語教育学実践研究Ⅱ	◎	○	
EN230-11-6C-3	英語教育学実践研究Ⅲ	◎	○	
EN230-12-6C-3	英語教育学実践研究Ⅳ	◎	○	
EN230-13-5C-2	第二言語習得研究Ⅰ	◎	○	
EN230-14-5C-2	第二言語習得研究Ⅱ	◎	○	
EN230-15-6C-3	第二言語習得研究Ⅲ	◎	○	
EN230-16-6C-3	第二言語習得研究Ⅳ	◎	○	
EN230-17-5C-2	異文化間コミュニケーション研究Ⅰ	◎	○	
EN230-18-5C-2	異文化間コミュニケーション研究Ⅱ	◎	○	
EN230-19-6C-3	異文化間コミュニケーション研究Ⅲ	◎	○	
EN230-20-6C-3	異文化間コミュニケーション研究Ⅳ	◎	○	
EN230-21-5C-2	英語教育学・応用言語学特殊講義Ⅰ	○	◎	
EN230-22-5C-2	英語教育学・応用言語学特殊講義Ⅱ	○	◎	
EN300-01-6R-3	論文演習Ⅰ		○	◎
EN300-02-6R-3	論文演習Ⅱ		○	◎

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制
2025年度入学生適用

1．博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な専門的授業科目として「英語英文学演習（I～IV）」を設置している。「英語英文学演習」では主指導教員と副指導教員との共同指導体制を採り、提出された「研究計画書」をもとに、研究関連分野の原典および研究論文の読解を中心とする演習を２年間にわたって行い、主・副指導教員がそれぞれの専門分野において博士論文完成までの指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【１年次】

４月	研究科教員によるガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、主指導教員及び副指導教員を決定する。 各大学院生は、指導教員の「英語英文学演習 I」「英語英文学演習 II」を履修し、指導教員と相談の上、１年次終了時の到達目標を決定する。
９月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
２月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【２年次】

４月	１年次に引き続き各大学院生は、指導教員の「英語英文学演習 III」「英語英文学演習 IV」を履修し、授業を通して博士論文のテーマに即した指導を受ける。
９月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
２月	各大学院生は、「博士論文中間報告書」を指導教員に提出する。

【３年次】

４月	各大学院生は、指導教員の「論文演習 I」「論文演習 II」を履修し、博士論文の完成を目指して必要な指導と助言を受ける。
12月～１月	博士論文を提出する。
１月～２月	審査委員４名（主査１名、副査３名）を決定し、論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位（博士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

①テーマの選択が明確であること。
②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
③研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
④研究内容や着眼点に独創性があり、当該研究分野への学術的な貢献ができる研究であること。
⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、博士論文の審査に際して、論文審査委員（主査１名、副査３名:うち１名は学外の

専門研究者）が選任され、論文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、博士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位（博士）を授与することになる。

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程授業科目及び履修単位

2025年度入学生適用

科　目　名	単位						担当者名
	1年		2年		3年		
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
英語英文学演習Ⅰ（英米文学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅰ（英語学・言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅰ（英語教育学･応用言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英米文学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英語学・言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英語教育学･応用言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英米文学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英語学・言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英語教育学･応用言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英米文学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英語学・言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英語教育学･応用言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅰ（英米文学）					2	半期	植　松　靖　夫
論文指導Ⅰ（英語学・言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅰ（英語教育学・応用言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅱ（英米文学）					2	半期	植　松　靖　夫
論文指導Ⅱ（英語学・言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅱ（英語教育学・応用言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員

◎履修方法

2025年度入学生適用

3年以上在学し、授業科目について12単位（演習8単位、論文指導4単位）を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には在学期間を短縮することができる。

◎履修指導・研究指導の方法

(1)　原則として、主指導教員1名および副指導教員1名の計2名が具体的指導に当たる。分野別の指導教員は以下の通り。

英米文学分野	石橋敬太郎 井出　達郎 植松　靖夫 福士　　航
英語学・言語学分野	大石　正幸 大沼　仁美 豊島　孝之 那須川訓也 バックレイ フィリップ
英語教育学・応用言語学分野	村野井　仁 吉村富美子

(2)　博士後期課程の学生は既に修士論文を作成した経験を持っているのが普通であり、入・進学の時点である程度まで研究テーマが絞られている。そのテーマを真に意味のあるものに鍛え上げ、確実な成果を上げうるように以下のような演習、論文指導を行う。

英語英文学演習Ⅰ・Ⅱ （1年次）	主指導教員および副指導教員との共同指導体制を採る。具体的には、あらかじめ提出されている「研究計画書」をもとに、当該研究に関連する原典あるいは研究論文等の読解を中心としたセミナーとなる。博士論文のテーマおよびその研究方法の妥当性を再確認し、論文内容の骨格形成に資するための指導をする。
英語英文学演習Ⅲ・Ⅳ （2年次）	授業形式は演習Ⅰ・Ⅱと基本的には変わらない。共同指導体制を採りながら、授業を通して論文のさらなる肉付けを目指す。
論文指導Ⅰ・Ⅱ （3年次）	演習と同じ指導体制のもとで、博士論文作成に必要な具体的指導を行う。

①　1年次では、学生の提出した「研究計画書」に基づき、まず、主指導教員と副指導教員を決定する。主指導教員は学生の博士論文作成の直接の指導に当たることになる。副指導教員は、主指導教員と連携しながら指導を行い、論文作成をサポートする。論文については、とりわけ、テーマの選択や研究の方法についての再検討および先行研究に関する情報の取捨選択などについて適切な指導を行う。学年末には「研究経過報告書」を提出させ、演習の評価を行う。

②　2年次においても、学生に対する指導体制は変わらない。論文内容のさらなる充実を目指し、適切な助言・指導を行う。学年末には「博士論文中間報告書」を提出させ、演習の評価を行う。

③　3年次は、論文の具体的作成にポイントを絞り、そのために必要な助言・指導を行うことになる。（英語表現や書き方など）実践的な指導を含め、随時、論文内容の報告やそれに対するディスカッションなどを行いながら論文の完成を目指す。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。

EN 100－01－5R－1

専攻記号

文学研究科
- EN　英語英文学専攻
- AS　アジア文化史専攻
- EU　ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科
- EC　経済学専攻
- DS　経済データサイエンス専攻

経営学研究科
- BU　経営学専攻

法学研究科
- LA　法律学専攻

工学研究科
- ME　機械工学専攻
- EI　電気工学専攻
- EE　電子工学専攻
- CE　環境建設工学専攻

人間情報学研究科
- HU　人間情報学専攻

科目区分

科目分類に従い、順に
大分類、中分類、小分類

中分類または小分類がない場合は0。

分類内での
科目番号

開講学年

5　博士前期課程（修士課程）1年
6　博士前期課程（修士課程）2年
7　博士後期課程1年
8　博士後期課程2年
9　博士後期課程3年

必修選択の区分

R　必修科目
C　選択必修科目
E　選択科目

難易度

1　基礎
2　中級
3　上級

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2025年度入学生適用

科目ナンバリング	科　目　名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		英語英文学に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する	英語英文学に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する	英語英文学に関する学術研究の継続的遂行及び成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する
EN400-01-7R-2	英語英文学演習Ⅰ		◎	○
EN400-02-7R-2	英語英文学演習Ⅱ		◎	○
EN400-03-8R-3	英語英文学演習Ⅲ		◎	○
EN400-04-8R-3	英語英文学演習Ⅳ		◎	○
EN400-05-9R-3	論文指導Ⅰ		○	◎
EN400-06-9R-3	論文指導Ⅱ		○	◎

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制
2024年度以前入学生適用

1．博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な専門的授業科目として「英語英文学演習（I～IV）」を設置している。「英語英文学演習」では主指導教員と副指導教員との共同指導体制を採り、提出された「研究計画書」をもとに、研究関連分野の原典および研究論文の読解を中心とする演習を２年間にわたって行い、主・副指導教員がそれぞれの専門分野において博士論文完成までの指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【１年次】

４月	研究科教員によるガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、主指導教員及び副指導教員を決定する。 各大学院生は、指導教員の「英語英文学演習 I」「英語英文学演習 II」を履修し、指導教員と相談の上、１年次終了時の到達目標を決定する。
９月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
２月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【２年次】

４月	１年次に引き続き各大学院生は、指導教員の「英語英文学演習 III」「英語英文学演習 IV」を履修し、授業を通して博士論文のテーマに即した指導を受ける。
９月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
２月	各大学院生は、「博士論文中間報告書」を指導教員に提出する。

【３年次】

４月	各大学院生は、指導教員の「論文演習 I」「論文演習 II」を履修し、博士論文の完成を目指して必要な指導と助言を受ける。
12月～１月	博士論文を提出する。
１月～２月	審査委員４名（主査１名、副査３名）を決定し、論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位（博士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

①テーマの選択が明確であること。
②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
③研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
④研究内容や着眼点に独創性があり、当該研究分野への学術的な貢献ができる研究であること。
⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、博士論文の審査に際して、論文審査委員（主査１名、副査３名:うち１名は学外の

専門研究者）が選任され、論文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、博士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位（博士）を授与することになる。

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程授業科目及び履修単位

2024年度以前入学生適用

科　目　名	単位						担当者名
	1年		2年		3年		
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
英語英文学演習Ⅰ（英米文学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅰ（英語学・言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅰ（英語教育学･応用言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英米文学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英語学・言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅱ（英語教育学･応用言語学）	2	半期					英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英米文学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英語学・言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅲ（英語教育学･応用言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英米文学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英語学・言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
英語英文学演習Ⅳ（英語教育学･応用言語学）			2	半期			英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅰ（英米文学）					2	半期	植　松　靖　夫
論文指導Ⅰ（英語学・言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅰ（英語教育学・応用言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅱ（英米文学）					2	半期	植　松　靖　夫
論文指導Ⅱ（英語学・言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員
論文指導Ⅱ（英語教育学・応用言語学）					2	半期	英語英文学専攻担当教員

◎履修方法

2024年度以前入学生適用

3年以上在学し、授業科目について12単位（演習8単位、論文指導4単位）以上を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には在学期間を短縮することができる。

◎履修指導・研究指導の方法

(1)　原則として、主指導教員1名および副指導教員1名の計2名が具体的指導に当たる。分野別の指導教員は以下の通り。

英米文学分野	石橋敬太郎 井出　達郎 植松　靖夫 福士　　航
英語学・言語学分野	大石　正幸 大沼　仁美 豊島　孝之 那須川訓也 バックレイ フィリップ
英語教育学・応用言語学分野	村野井　仁 吉村富美子

(2)　博士後期課程の学生は既に修士論文を作成した経験を持っているのが普通であり、入・進学の時点である程度まで研究テーマが絞られている。そのテーマを真に意味のあるものに鍛え上げ、確実な成果を上げうるように以下のような演習、論文指導を行う。

英語英文学演習Ⅰ・Ⅱ （1年次）	主指導教員および副指導教員との共同指導体制を採る。具体的には、あらかじめ提出されている「研究計画書」をもとに、当該研究に関連する原典あるいは研究論文等の読解を中心としたセミナーとなる。博士論文のテーマおよびその研究方法の妥当性を再確認し、論文内容の骨格形成に資するための指導をする。
英語英文学演習Ⅲ・Ⅳ （2年次）	授業形式は演習Ⅰ・Ⅱと基本的には変わらない。共同指導体制を採りながら、授業を通して論文のさらなる肉付けを目指す。
論文指導Ⅰ・Ⅱ （3年次）	演習と同じ指導体制のもとで、博士論文作成に必要な具体的指導を行う。

①　1年次では、学生の提出した「研究計画書」に基づき、まず、主指導教員と副指導教員を決定する。主指導教員は学生の博士論文作成の直接の指導に当たることになる。副指導教員は、主指導教員と連携しながら指導を行い、論文作成をサポートする。論文については、とりわけ、テーマの選択や研究の方法についての再検討および先行研究に関する情報の取捨選択などについて適切な指導を行う。学年末には「研究経過報告書」を提出させ、演習の評価を行う。

②　2年次においても、学生に対する指導体制は変わらない。論文内容のさらなる充実を目指し、適切な助言・指導を行う。学年末には「博士論文中間報告書」を提出させ、演習の評価を行う。

③　3年次は、論文の具体的作成にポイントを絞り、そのために必要な助言･指導を行うことになる。(英語表現や書き方など) 実践的な指導を含め、随時、論文内容の報告やそれに対するディスカッションなどを行いながら論文の完成を目指す。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。

EN 100－01－5R－1

専攻記号

文学研究科
- EN　英語英文学専攻
- AS　アジア文化史専攻
- EU　ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科
- EC　経済学専攻
- DS　経済データサイエンス専攻

経営学研究科
- BU　経営学専攻

法学研究科
- LA　法律学専攻

工学研究科
- ME　機械工学専攻
- EI　電気工学専攻
- EE　電子工学専攻
- CE　環境建設工学専攻

人間情報学研究科
- HU　人間情報学専攻

科目区分

科目分類に従い、順に
大分類、中分類、小分類

中分類または小分類がない場合は0。

分類内での
科目番号

開講学年

5　博士前期課程（修士課程）1年
6　博士前期課程（修士課程）2年
7　博士後期課程1年
8　博士後期課程2年
9　博士後期課程3年

必修選択の区分

R　必修科目
C　選択必修科目
E　選択科目

難易度

1　基礎
2　中級
3　上級

◎文学研究科英語英文学専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2024年度以前入学生適用

科目ナンバリング	科　目　名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		英語英文学に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する	英語英文学に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する	英語英文学に関する学術研究の継続的遂行及び成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する
EN400-01-7R-2	英語英文学演習Ⅰ		◎	○
EN400-02-7R-2	英語英文学演習Ⅱ		◎	○
EN400-03-8R-3	英語英文学演習Ⅲ		◎	○
EN400-04-8R-3	英語英文学演習Ⅳ		◎	○
EN400-05-9R-3	論文指導Ⅰ		○	◎
EN400-06-9R-3	論文指導Ⅱ		○	◎